

問 8 会話文読解

(本文の日本語訳)

1月のある日、ナオキとユミとA.L.T.のブラウン先生が教室で話をしています。

ナオキ：ユミ、今週の土曜日の午後、ぼくは友だちとブラウン先生と一緒に公園でテニスをするんだけど、君も一緒にテニスができるかい。

ユミ：今週の土曜日の午後？ 1月19日は…

ユミは手帳を開きます。

ユミ：ごめんなさい。友だちとコンサートに行く予定なの。

ナオキ：そうなんだ。おお、すばらしい手帳を持っているね。

ユミ：ありがとう。この手帳をととても気に入っているのよ。私は毎年手帳を買っていて、この手帳は先月買ったの。いつもこの手帳を持ち歩いているわ。

ナオキ：手帳を使うのはかっこいいと思うよ。

ブラウン先生：ユミ、手帳に何を書きとめているのですか。

ユミ：ええと、学校行事、友だちとの約束、友だちの誕生日といったスケジュールです。また、私は自分の目標ややりたいことも、いつも書きとめています。

ブラウン先生：それはすばらしいですね。いつ手帳を使い始めたのですか。

ユミ：中学生になったときに使い始めました。当時、私はとても忙しくて、しなければならないことをときどき忘れていました。だから、手帳を買ってそれに自分のスケジュールを書きとめることを始めました。

ナオキ：なるほど。じつは、ぼくも以前に手帳を買ったことがあるんだ。でも、書きとめることがほんの少しだけだったから、すぐに手帳を使うことをやめてしまったよ。今は、何が予定があれば、自分の部屋のカレンダーに書きとめているよ。

そのとき、ユミとナオキの担任のマエダ先生が教室に入ってきて、彼らに話しかけます。

マエダ先生：こんにちは、ユミ、ナオキ、ブラウン先生。おお、すばらしい手帳を使っていますね、ユミ。

ユミ：ありがとうございます。マエダ先生は手帳を使っていますか。

マエダ先生：もちろんです。手帳には自分のスケジュールを書きとめています。

ナオキ：先生たちは毎日忙しそうですね。

ブラウン先生：私たちにはしなければならないことがたくさんあります。私は日本に来てから手帳を使い始めました。日本の書店では多くの種類の手帳が売られているのを見ると、いつも驚きます。手帳を使う日本人は多いですね。

マエダ先生：ええ、とくに社会人ですね。書店では、手帳の選び方や手帳の使い方に関する本を見つけることもできます。

ブラウン先生：それは面白いですね。日本の人々は前もって計画を立てることが好きなんだと思います。

ユミ：私もそう思います。友だちと何かをしたいと思うと、友だちと話して、前もって計画を立てます。

ナオキ：ぼくもです。ブラウン先生、アメリカの人々はどうですか。

ブラウン先生：アメリカ人は、そんなに頻繁に前もって計画を立てないと思います。アメリカにいたとき、たいていは当日に友だちと話をして、どうするかを決めていました。

ナオキ：ぼくはときどきそうします。でも、たいていは前もって計画を立てます。今、ぼくは、計画の立て方についての、アメリカの人々と日本の人々との間の違いがわかりました。

ユミ：面白いですね。